

SAMPLE

特集レポート No. 046

# 人口減少時代の民鉄生き残り戦略

*Strictly Confidential*



2017年 6月28日

## はじめに

---

- 従来より民鉄は鉄道事業のみならず、不動産業や流通業などを展開することで多角化し、戦後から高度経済成長、そしてバブル崩壊後まで、激動の時代を生き残ってきた
- しかし今後国内は人口減少期に入り、徐々にではあるが鉄道ビジネスの根本を揺るがす環境変化が進行することが確実である
- 本レポートでは民鉄各社が経営環境の変化に合わせてどのような取り組みを進めているかを整理し、今後のあるべき方向性について考察していく

# 本資料の流れ

---



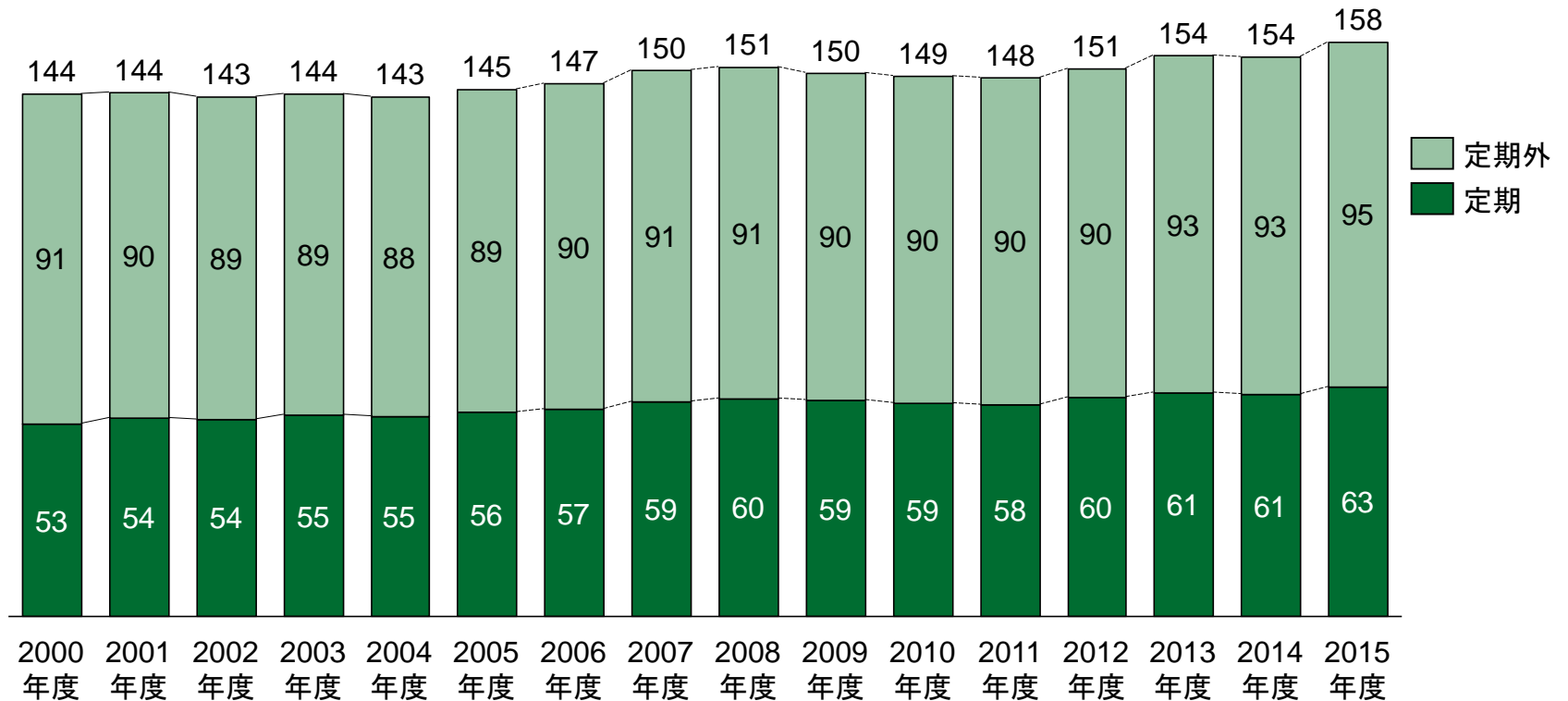
- I. 民鉄の経営環境
- II. 生き残りをかけた取り組みの事例
- III. 民鉄の現状の課題と今後の方向性

# 民鉄の旅客人キロの推移

- これまで民鉄は比較的景気に左右されにくく、安定した鉄道収益を上げてきた

## 民鉄の旅客人キロ\*1推移

(単位: 十億人キロ)



注: \*1. 旅客人キロとは、旅客数(人)にそれぞれの乗車した距離(キロ)を乗じたものの累積を指す

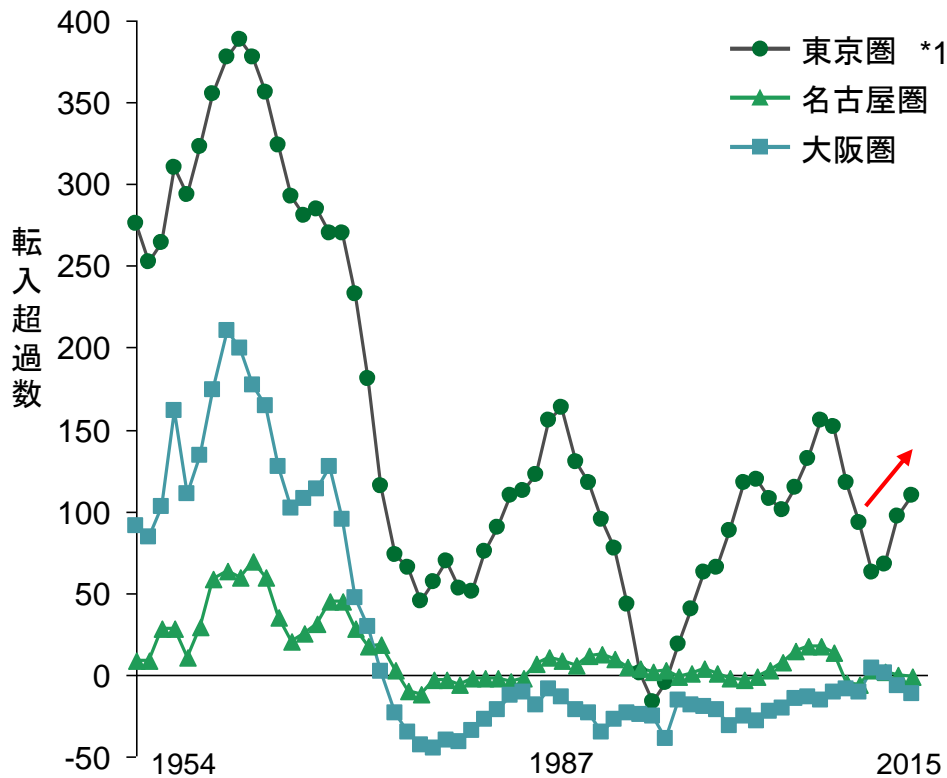
出所: 国土交通省「鉄道輸送統計調査」

# 国内人口移動の推移および訪日外国人客の推移

- 近年は大手民鉄が事業を展開している都心への人口回帰の兆しがみられ、インバウンドも好調である
  - これまでのところ大手民鉄、特に関東圏の私鉄にとっての事業環境はそこまで厳しいものではなかった

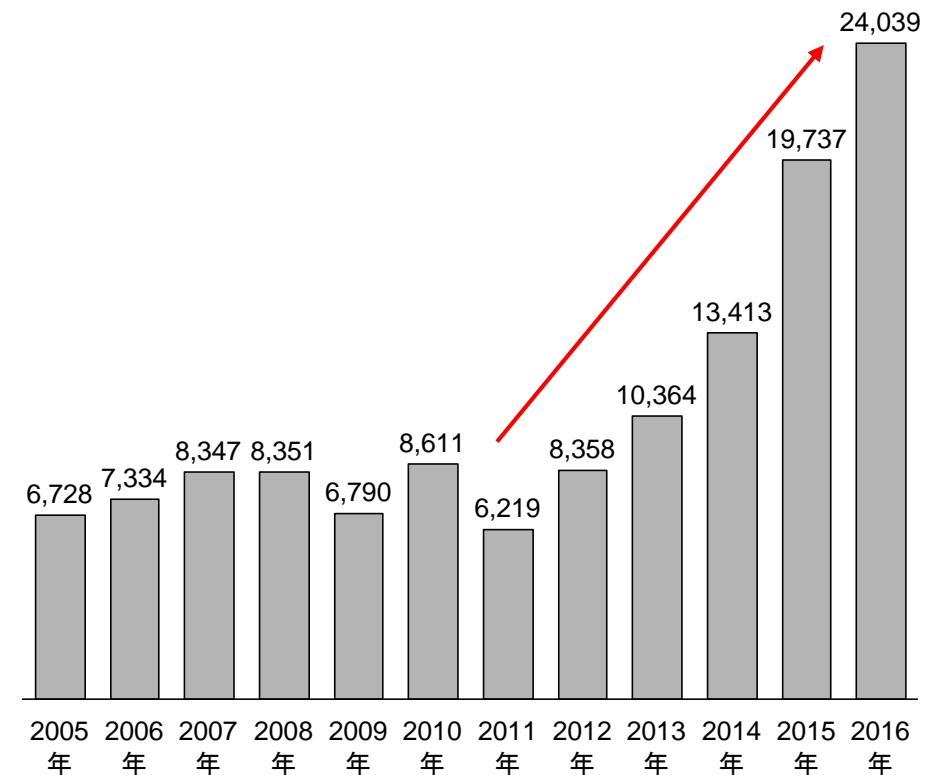
## 三大都市圏の人口移動の推移

(単位: 千人)



## 訪日外国人客の推移

(単位: 千人)



注: \*1. 東京圏:埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県 名古屋圏:岐阜県、愛知県、三重県 大阪圏:京都府、大阪府、兵庫県、奈良県

出所: 総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告年報」、日本政府観光局

# 大手民鉄の鉄道収益規模

- 大手民鉄16社の鉄道収益は平均1,003億円、営業損益で平均175億円を稼いでいる

## 民間鉄道企業の1社あたりの平均営業キロ・平均輸送人員

(単位: km)

(単位: 百万人)

営業基盤

	対象社数	平均営業キロ				平均輸送人員			
		2009年	2010年	2011年	2012年	2009年	2010年	2011年	2012年
大手民鉄	16	179	182	182	182	591	588	587	610
準大手民鉄	5	23	22	22	22	—	—	51	52
地方交通	115	29	35	35	31	—	—	7	8

## 民間鉄道企業の1社あたりの営業収益・営業損益

(単位: 億円)

鉄道収益

	対象社数	平均営業収益				平均営業損益			
		2009年	2010年	2011年	2012年	2009年	2010年	2011年	2012年
大手民鉄	16	1,002	990	985	1,003	168	165	160	175
準大手民鉄	5	85	82	77	78	9	9	9	8
地方交通	104	20	20	20	21	0	1	1	1

## SAMPLE版はここまでです。

続きは、業界チャンネル 特集レポート にてご覧ください。

特集レポート一覧はこちら ▶

“業界チャンネル 特集レポート”とは、

経営コンサルタントの目線で特に伸びているビジネスに注目して分析。  
その成功の鍵や今後に言及し、「打ち手」を導出します。

